

日本医史学雑誌第五十巻 総目次

原 著

Hippocratic Medicine and Philosophy at the End of the 20th century (1)

.....Spyros MARKETOS..... 一六三

日中両国における人痘接種法の比較研究

..... 邵 沛..... 一六七

杉山檢校遺徳顕彰会所蔵の『杉山真伝流』

..... 大浦宏勝・小曾戸洋..... 二二三

GHQ占領期における医師会の設立・加入体制の

構築経緯..... 神里(所)彩子..... 二四三

蘇軾(東坡居士)を通して宋代の医学・養生を

考える..... 小高 修司..... 二四九

Drop by Drop: The Introduction of Western

Distillation Techniques into Seventeenth-

Century Japan Wolfgang MICHEL and

Elke WENGER-KLEIN..... 二六三

Hippocratic Medicine and Philosophy at the

End of the 20th century (2)

..... Spyros MARKETOS..... 二六九

江戸時代の麻疹と医療——文久二年麻疹騒動の

背景を考える..... 鈴木 則子..... 二七一

曲直瀬玄朔の著作の諸問題——『山居四要抜粹』

『済民記』は玄朔の著作か

..... 遠藤次郎・中村輝子..... 二五七

中国古代・中世における逐月胎児説の変遷

..... 鈴木 千春..... 二五九

研究ノート

電磁波による生体影響の研究・治療の歴史

..... 奈良圭之輔・岩井信市 横地章生・小口勝司..... 二七五

明治前期官営産業施設のフランス人医師について

..... 須長 泰一..... 二七一

ニコライ・コロトコフ——聴診による血圧測定の見

..... 藤倉 一郎..... 二八一

お玉ヶ池痘痘所——その設立拠金者八二名誤謬説の

起源をさぐる..... 深瀬 泰且..... 二八五

スペイン宮廷のヴェサリウス..... 泉 彪之助..... 二九一

資 料

寛政甲寅考試書類三種——その一

..... 戸出一郎・町泉寿郎..... 二九一

手塚良斎「医学所御用留」(六)..... 深瀬 泰且..... 三〇三

寛政甲寅考試書類三種——その二

..... 戸出一郎・町泉寿郎..... 三〇六

関場不二彦の未発表原稿「西医学東漸史話補遺」について

..... 秦 温信・島田保久..... 三〇六

寛政甲寅考試書類三種——その三 長瀬 清・鮫島夏樹…………… 四一

池田文書の研究(二十五)…………… 池田文書研究会…………… 六八
 手塚良斎「医学書御用留」(七)…………… 深瀬 泰且…………… 六八

記 事

例会抄録

吳秀三・樫田五郎「精神病患者私宅監置ノ實況及び其統計的觀察」

精読…………… 橋本 明…………… 三一
 本問玄調(棗軒)について…………… 荒井 保男…………… 三三
 『本草品彙精要』卷二の研究…………… 肖 永芝…………… 三四
 齋藤茂吉ほか・断種法史上の人びと(七)…………… 岡田 靖雄…………… 三六

済生学舎を中心とした野口英世の細菌学への道程…………… 唐沢信安・殿崎正明…………… 三九

日本における病院歯科の軌跡…………… 榊原悠紀田郎…………… 三〇
 相州小田原藩医・市川氏と市河氏…………… 中西 淳朗…………… 三三
 産婆が書いた通俗衛生書『産前産後衛生心得』(明治三五年刊)…………… 平尾真智子…………… 四三

医の心の歴史的観察と現代の課題…………… 杉田 暉道…………… 四五
 高 良斉と日高涼台の用薬倫理をめぐって…………… 中西 淳朗…………… 六四
 HbA_{1c}の発見の歴史…………… 佐分利保雄…………… 六七

精神医学における障害史の臨床的意義…………… 山田 和夫…………… 六八

消 息

二十一世紀の本居宣長展…………… 蔵方 宏昌…………… 六九
 大江医家史料館(中津市)完成し公開…………… 中西 淳朗…………… 七〇

書籍紹介

ジョン・ダフィー 網野豊 訳『アメリカ医学の歴史
 ヒポクラテスから医科学へ』…………… 瀧澤 利行…………… 三三
 篠田達明『モナ・リザは高脂血症だった』…………… 山崎 光夫…………… 三五

日本精神神経学会百年史編集委員会

『日本精神神経学会百年史』…………… 岡田 靖雄…………… 三七
 吉元昭治『日本全国神話伝説道指南』…………… 奥沢 康正…………… 三九

太田安雄『太田雄寧伝』…………… 寺畑 喜朔…………… 三一
 梶田 昭『医学の歴史』…………… 三輪 卓爾…………… 三三

瀧澤利行『養生論の思想』…………… 新村 拓…………… 三四
 小竹英夫『北海道医学教育史攷』…………… 島田 保久…………… 三六

館澤貢次『ドイツ人に敬愛された医師 肥沼信次』…………… 唐沢 信安…………… 三七

館野正美『吉益東洞「古書醫言」の研究』…………… 秋葉 哲生…………… 三九

山崎光夫『ドンネルの男 北里柴三郎』…………… 会田 恵…………… 四〇

片桐一男『平成蘭学事始 江戸・長崎の日蘭交流史話』…………… 望月 洋子…………… 四三

川村純一『千葉県伝染病史』…………… 深瀬 泰且…………… 四四

杉浦守邦『カルテ拝見 文人の死因』……………

藤田恒夫・牛木辰男「カラー版・細胞紳士録」	蔵方 宏昌	四〇
片桐一男編「日蘭交流史 その人・物・情報」	中西 淳朗	四五
山崎智「白き貝殻——日本海軍歯科医科士官の歴史」	石原 力	四七
松木明知「華岡青洲と「乳巖」治験録」	榑原悠紀田郎	四九
松木明知編「日本牛痘種痘史文献目録」	岩瀬 敬司	四〇
中村禎里「近代生物学史論集」	蔵方 宏昌	五三
青木純一「結核の社会史」	月澤美代子	五三
高島文一「鍼の道——内科医の青春」	鈴木 晃仁	五四
高島文一「鍼の道——内科医の青春」	杉浦 守邦	五五
文庫めぐり	末中 哲夫	五九
東京大学総合図書館	後藤 志朗	二九〇
西尾市岩瀬文庫	遠藤 正治	三九〇
陽明文庫	奥沢 康正	四〇四
静嘉堂文庫	小曾戸 洋	五九〇

第一〇五回 日本医史学会 総会 演題目次

会長講演	荒井 保男	六	
D・B・シモンズ知見補遺			
特別講演 (1)	菊谷 豊彦	二〇	
漢方製剤の医史学的検討			
特別講演 (2)	お玉ヶ池種痘所——その設立掘金者八二名誤謬説の起源をさぐる	深瀬 泰旦	三
一般演題			
1 ホワイト・ヘブン・サナトリウムとローレンス・F・フリック医師	青木 國雄	一八	
2 フライブルク大学と北海道大学医学部との産婦人科・新生児領域における交流の歴史	鈴木重統・宮下舜一	三〇	
3 江戸時代の看護書『病家須知』の著者平野重誠の背景——家系を中心に	中村節子・平尾真智子	三	
4 リンダ・リチャーズ来日直後の足跡 (一八八六年、横浜から京都へ)	岡山寧子・依田和美	二四	
5 GHQによる看護改革の流れ——GHQ看護課 G.E. Alt 課長に対する協調と対立の構図 (二)	大石 杉乃	三六	
6 日本で最初の看護婦留学生とセント・トマス病院	芳賀佐和子・住吉蝶子・平尾真智子	三六	

7	佐伯理一郎とペンシルバニア大学留学—— 大学便覧(一八八七〜八八)から得た若干の知見 渡辺 昭彦……………三
8	中津藩医山辺文伯と産育編について(二) 石原 力……………三
9	ロイヤル・ブロンプトン・ホスピタルの 設立について……………柳澤 波香……………三 『解剖学表』(『解体新書』の原著、いわゆる 「ターヘルアナトミア」) 異版の研究——第一報 石田 純郎……………三
10	ガレノスとヴェサリウスの解剖学の比較研究(三)—— 門脈を例にとつて……………坂井 建雄……………三 スペイン宮廷のヴェサリウス……………泉 彪之助……………三 Thomas WillisのCerebri Anatomieに見る 中枢神経・機能発現の機序……………門田 栄治……………三 コロトコフの聴診による血圧測定の見聞 藤倉 一郎……………三
11	二十世紀初頭のイェルサレムにおけるマラリア 馬場わかな……………三
12	十九世紀アメリカ合衆国におけるヘルス・ リフォーム——菜食主義の社会的・文化的地平 鈴木 七美……………三 内藤記念くすり博物館蔵「浅田宗伯の薬箱」について 中村輝子・遠藤次郎……………三 ヴォルフガング ミヒェル……………三
13	『衆方規矩』の編纂者の問題 遠藤次郎・中村輝子……………三
14	多紀家文書(北里医史研究所蔵)の概要……………三
15	麻疹の周期性と近代日本の疫病伝播の分析 鈴木 晃仁……………三
16	十九世紀後半の神奈川県における天然痘と種痘の状況 川部 裕幸……………三
17	GHQ文書による占領期のハンセン病関係史料の研究 杉田 聡・丸井英二……………三
18	近代横浜における天然痘・種痘統計の分析 市川 智生……………三
19	江戸時代の梅毒をめぐる意識について 鈴木 則子……………三
20	大正期東京市における腸チフスの地区別分析 永島 剛……………三
21	戦後期に発生した予防接種後の四つの接種結核 事故について……………渡部 幹夫……………三 「杉山真伝流」の継承者たち——江戸中期鍼灸術の 精粹・杉山真伝流を完成・継承した人々 大浦宏勝・花輪壽彦・石野尚吾……………三
22	「中華医鍼様譜」について 宮川浩也・石野尚吾・花輪壽彦……………三
23	隋唐期脈状記載との比較による二十四脈状の検討 中川 俊之……………三
24	『千金方』に見られる唐以前諸家灸法について 吉岡 広記……………三
25	『外臺秘要方』卷三十九に引用される『明堂』条文に ついて……………木場由衣登……………三
26	『聖濟総録』鍼灸門所引の『甲乙経』について 上田 善信……………三

44	東京養育院医員時代の光田健輔について 平井雄一郎.....	104
43	野口英世の伝染病研究所時代の師 唐沢信安・殿崎正明.....	103
42	中国における村医の養成と医学教育 杉山 章子.....	99
41	住民による健康増進活動の形成—— 長野県八千穂村における実践から 寺畑 喜朔.....	96
40	日本における医学映画の淵源 奈良圭之輔・岩井信市・横地章生・小口勝司.....	94
39	電磁波による生体影響の研究・治療の歴史 助 昭三.....	93
38	十五年戦争と日本民族衛生学会(協会)(その二)—— 学会活動と「国民優生法」の制定 江川 義雄.....	90
37	広島原爆投下時の県並びに市医師会長の活動について 柴田 幸雄.....	88
36	旧制高校理科(乙)および旧制医科大学予科に おける語学教育、リベラルアーツと現在 柳田 純子.....	86
35	精神科作業療法職の専門分化課程の考察(一)—— 昭和四〇年の資格化に伴う職務への影響 堀江 奨.....	84
34	『鍼灸阿是要穴』について..... 宮川 隆弘.....	83
33	『靈枢』に見える「針」字と「鍼」字 堀江 奨.....	84
45	ベルツの北海道訪問と新史料「石狩紀行」(関場) 宮下 舜一.....	106
46	石黒忠憲と野口英世——石黒不円文庫調査第一報 町泉寿郎・小菅戸洋.....	106
47	高松凌雲(一八三六—一九一六)とフランス 小林 晶.....	106
48	長与専斎と「衛生意見」の意義 笠原 英彦.....	103
49	オットー モーニツケの博物学研究 相川 忠臣.....	104
50	新潟県西洋医学教育の嚆矢 J.P.I. VIDAL の碑除幕式 清水 陽人.....	106
51	A・F・ボードインの大坂病院における診療記録と 眼科講義ノート..... 中山 沃.....	108
52	フランスから来た紙塑人体模型と明治初期日本に おける人体解剖模型製作の開始 月澤美代子.....	100
53	近代上海における岸田吟香の医薬事業について (一八六〇—一八九〇)..... 丁 蕾.....	103
54	新出資料「櫻園先生叢話」について—— 高岡佐渡家文書から..... 正橋 剛二.....	104
55	杉田立卿と江戸における文化十年の乳癌手術 松本 明知.....	106
56	安中板倉藩の人口問題と対策..... 清水 英一.....	106
57	内藤記念くすり博物館蔵「鱒石」の袋の書付について 後藤志朗・中村輝子・遠藤次郎.....	106
58	中野康章と大同薬室文庫 現在の利用状況と ヴォルフガング ミヒェル.....	100

- 今後のデジタルアーカイブ化について
 『今川義元伝書』における腹診の検討……………野尻佳与子・青木允夫……………一三三
 『解体発蒙』に引用される中国医学古典……………鈴木達彦・遠藤次郎・中村輝子……………一三四
 馬王堆医書『養生方』の再検討……………友部和弘・石野尚吾・花輪壽彦……………一三五
 『范汪方』について……………天野陽介・宮川浩也・花輪壽彦……………一三六
 道教と中国医学(第二十四回)『太上感应篇』……………浦山 さか……………一四〇
 薛己の外科治療概念の考察……………吉元 昭治……………一四三
 唐代における『千金方』の形跡……………西卷 明彦……………一四四
 ………………郭 秀梅……………一四六
 京都大学整形外科学教室初代教授 松岡道治先生の業績……………廣谷 速人……………一四八
 近代医学への道を歩んだ西井格太郎の履歴……………西井 易穂……………一五〇
 満州医科大学旧蔵古医籍の行方……………真柳 誠……………一五三
 台湾国立中央図書館所蔵の医心方鈔本について(誌上発表)……………杉立 義一……………一五五
 『日本書紀』の中の身体に関わる表現……………計良 吉則……………一五七
 明治十五年施行の旧刑法二五六条「私ニ医業ヲ為ス罪」と大審院での判決事例……………樋口 輝雄……………一五八
 私宅監置室の実態——各府県における精神病者……………橋本 明……………一六〇
 監護法取扱手続の比較……………橋本 明……………一六〇
- 73 正骨家吉原杏蔭齋に関する新資料とその門下生……………蒲原 宏・川島真人……………一六二
 74 近代白内障手術の変遷と小院での日帰り手術……………鈴木高遠・千種浩司……………一六四
 75 鶴見大学図書館所蔵の紅毛流膏藥集と紅毛流膏方に
 ついて……………中西 淳朗……………一六六
 76 吉益東洞『古書医言』引『心卵経』攷……………館野 正美……………一六八
 77 本間棗軒『内科秘録』にみる癩狂説……………岡田 靖雄……………一七〇